

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2011
平成23年

4.15

目次

「しみんの広場」	2
伊良湖村移転の歴史	
広報サポーター募集	
地域の話題	
市民活動を応援するページ	
スクールレポート	6
学校生活の一コマを紹介	
たはらしティニュース	7
おしらせ	8
連載コーナー	10

笑顔のタネが
育つといいな!





しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

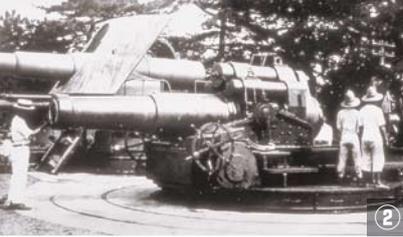
- 「伊良湖村移転」の歴史……………2ページ
- 広報サポーター募集……………3ページ
- 地域の話題（亀山校区）……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

「伊良湖村移転」の歴史

風光明媚な景勝地として知られる伊良湖岬。その昔、伊良湖の集落が全村移転したのを、皆さんはご存知ですか？今回は、地区の方から聞いた移転の歴史についてご紹介します。



- ①日出園地（日出砲台跡）からの眺め
 - ②実際に使用されていた大砲
 - ③昭和初期ごろの気象観測兼展望塔（右）と無線電信所（左）
- ※現在でもその姿を見ることができます



半年間で全村移転へ

1905年（明治38年）当時の伊良湖集落は、現在の伊良湖シーパーク&スパから伊良湖シーサイドゴルフ倶楽部周辺にありました。当時の戸数は112戸、人口729人で、半農半漁の暮らしをしていました。

この年の9月、陸軍から伊良湖の土地を収用するという通告があり、半年以内に集落全ての家を移転するようにとの命令が届きました。これは伊良湖射場（小中山町）の拡大に伴う用地買収によるものでした。戦時下における軍の力は絶大で、伊良湖集落の方たちは、現在の伊良湖集

落までレールを引き、トロッコで荷物を運び移転を始めました。そして1906年（明治39年）3月、全ての家の移転が完了しました。

伊良湖射場とは

伊良湖射場の正式名称は「陸軍技術研究所伊良湖試験場」で、現在の小中山町の田戸神社付近にありました。これは当時の日本陸軍の大砲の実射試験場で、使用する大砲や弾薬のほとんどが、ここで試験検査を受けて、戦地へと配備されたのです。それでは、なぜこの場所に伊良湖射場が造られたのでしょうか。考えられている理由は、3つあります。

- 大砲の射幅10kmが確保できたこと
- 地形が平らで、弾が飛んでいく様子がよく見えたこと
- 家が少なく用地取得がしやすかったこと

1901年（明治34年）、小中山地区（西山の一部が射場用地となり、1905年（明治38年）には用

地拡大のため西山（伊良湖地区が軍用地として買収されました。

今なお残る戦争遺跡

伊良湖射場の施設で、現在も残っているものは32個あります。日出園地下に残る外浜観測所もその一つですが、多くは小中山町に残されています。最も象徴的なものは、地元の方から通称「六階建」と呼ばれている気象観測兼展望塔跡です。この塔では、気象条件などを観測したり、大砲の弾の軌道などを確認したりしていました。

皆さんも、残された戦争遺跡を見て、全村移転をした伊良湖の人々に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



▲外浜観測所（日出園地下）宮山と小山の間を越えて飛んできた砲弾を観測した施設



▲ 移転記念碑 (右)
移転 100 周年記念碑 (左下)

願はしきものは平和なり

伊良湖小学校の北側に、移転を記念し建てられた石碑が建っています。

平成17年11月、この石碑の前に、移転100周年を記念して伊良湖自治会により新たな石碑が建てられました。この石碑に刻まれているのは、[※]柳田國男の紀行文「遊海島記」の中に出てくる「願はしきものは平和なり」の文章です。全村移転をした後、先人の努力などにより幸せに暮らしてきた伊良湖村。この二つの石碑には、伊良湖の方々の、この先も平和で幸せに暮らせるようにとの思いが込められています。

[※]伊良湖に滞在したことがある民俗学者。「遊海島記」には、風光明媚な伊良湖について多く記されています。



▲ 報告会で真剣に話を聞く参加者たち
▼ 伊良湖集落移転 100 周年記念誌「伊良湖誌」

伊良湖の歴史を再発見！

2月26日(土)、「伊良湖村の移転と再構成」と題する報告会が伊良湖市民館で開催されました。報告者は、法政大学をこの春に卒業された田村谷友美さんです。田村谷さんは、「伊良湖誌」という本と出会ったことをきっかけに、伊良湖村の移転をテーマに調べてみようと思ったそうです。約半年間かけて、伊良湖地区の建物を調査し、その成果と考察を卒業論文にまとめられました。

この「伊良湖誌」という本は、伊良湖自治会が平成18年11月に発行した伊良湖集落移転100周年記念誌です。伊良湖の歴史や郷土料理などが掲載されています。この本は、市図書館にありますので、ぜひご覧ください。

市民参加

平成23年度

広報サポーターを募集します。

「広報たはら」の紙面づくりやケーブルテレビへの出演、インターネットを使った情報発信など、市の広報活動に参加してみませんか？

＜応募要領＞

- **応募資格** 市内にお住まいの18歳以上の方
※ただし、公務員や公職にある方、高校生を除きます。
- **活動内容** 次の中から希望するもの
 - ① 市民記者(取材・記事作成)
 - ② インターネット(ブログ、Twitterなど)を活用した情報発信
 - ③ CATV市政情報番組のナビゲーター出演
 - ④ イベント・風景などの撮影
- **募集人員** 7名以内
- **募集期間** 5月2日(日)まで(必着)
- **応募方法** 応募用紙に「氏名」「性別」「生年月日」「住所」「連絡先」「職業」「応募動機・抱負(100文字以内)」「参加したい広報活動」を記入のうえ、直接持参または郵送・ファックス・Eメールにて
※上記の必要事項が記入されていれば、任意の用紙でも可
※応募用紙は広報秘書課で配布のほか、市ホームページからもダウンロード可
- **選考方法** 意欲などを考慮して、市の選考により決定
- **発表** 応募者に通知のほか、広報にも掲載
- **活動期間** 平成24年3月末まで
- **謝礼** 年10,000円



【応募・問い合わせ先】

田原市役所 広報秘書課
〒441-3492(住所不要)
☎22局0138 FAX 23局1691
✉ koho@city.tahara.aichi.jp
🌐 http://www.city.tahara.aichi.jp/



▲お世話をしてくれた地域の方と記念撮影



▲落ち葉スキー場でソリ遊びを楽しむ亀山小学校の子どもたち

地域の話

亀山校区

地域で子どもを育てる

「ふるさと学習」

地域の自然や歴史文化を、子どもたちの成長に役立てている
亀山校区からお便りが届きました。

地域発!

亀 山校区では、地域の皆さんが
亀山小学校と連携し、地域全
体で子どもたちを育てていく取り組
みを進めています。

牛の樹山に親しむ

亀山校区には、地域のシンボルで
あり、住民の憩いの場となっている
里山・牛の樹山があります。小学校
から近いこの山は、子どもたちの総
合学習の場となっています。

毎年1月には、学校行事で落ち葉
スキーを開催しています。スキー場
となる傾斜地は、「牛の樹山を愛す
る会」の方たちが草刈りなどの手入
れを行っています。スキーを行うと
きは、まず、PTAの役員さんが松

林に出向き、〽〽(枯れ松葉)を集
めふもとに運びます。それを高学年
の子どもたちが傾斜地まで運んで行
き、先生の指導でまん遍なく広げて、
落ち葉のグレンデを作っています。

2月下旬には、牛の樹山を愛する
会の協力で、卒業生による植樹を
行っています。苗木が大きくなり、
花が咲いたり実がなったりする季節
に、かつて遊んだ牛の樹山を思い出
してくれるよう願っています。

地域ゆかりの活動

亀山地区の神御衣御料所では、伊
勢神宮に絹糸を奉獻する「お糸船」
を実施しています。伊勢神宮の「神
服」の原料糸となる、赤引きの糸

(絹糸)を、「三河赤引き」として奉
納しています。そのゆかりで、亀山
小学校では、蚕を育て、繭から糸を
紡いで絹糸を作る体験学習を実施し
ています。そして、絹糸を使って、は
たを織る「機織クラブ」の活動も
行っています。

現在は、はた織り経験のある地域
の方たちがクラブ運営を担っていま
すが、はたを織るまでの準備には、
相当の手間と時間がかかるため、多
くの協力者が必要となります。そこ
で、この活動の楽しさに触れ、多く
の方に参加していただく機会となる
ように、はた織り体験会を開催して
います。他校区の方でも大歓迎。興
味のある方は、ぜひ、お気軽にクラ
ブ活動を見に来てください。



「機織クラブ」開催日

日時 4月21日(木)、5月19日(木)、5月26日(木)、
6月30日(木) / 午後1時30分～4時
場所・お問い合わせ 亀山小学校 ☎ 35局 6210



市民活動を応援するページ.....



市民活動紹介

田原UC (ユージー)

羽ばたけ、地域とともに！ ～田原UCメモリアル (卒業式)～



●田原UCのメンバー

UC^{ユナイテッド チルドレン} (United Children) とは、中高生が「地域を舞台にどんな挑戦をしていくかを自分たちで考え、自分たちで創り上げる」という意識を持ち、社会に向けた活動を全国各地で行っている団体です。

田原UCは、(社)田原青年会議所がアドバイザーとなり、「社会に出る前に自分が何ができるか、社会のために自分が率先して何ができるかを知ってほしい」という思いを胸に、市内の高校生で活動しています。

2009年には「エコキャップでつなぐ友情の輪」をテーマに「TAHARA UC フェス 09」を実現し、集まった23万個のエコキャップをワクチン寄付に当てました。ほかにも、若い力で伝統を盛り上げようと「二七の市」へ出店したり、ホテルのすむ川にキャンドルをともし、エコについて市民の皆さんに問い掛けたりしました。

◆第一期生が卒業

3月19日(土)に、田原UC第一期生の卒業式を行いました。田原町の築出公園で「トキワマンサク」の植樹を行い、その後、田原文化会館多目的ホールで卒業生一人ひとりが卒業証書を受け取りました。

卒業生は、「仲間がいたから、普通ではできない経験ができた」「楽しかった、第二期生もがんばって」という言葉を残し、それぞれの道に進んでいきました。

●田原UCでは、プロジェクトに参加してくれる中高生を募集しています。

詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ▶ (社)田原青年会議所 ☎23局 2740 ✉jimukyoku@taharajc.jp



●記念植樹を行う第一期生

協働
ニュース

田原市民活動支援センターのホームページを開設

4月から、田原市民活動支援センターのホームページを開設しました。ここでは、センターの紹介やお知らせのほか、市民活動団体のイベント情報、各種支援制度、その他市民活動に関する情報などを随時お知らせします。市民の皆さんに、市民活動を身近に感じていただけるような、市民活動団体やボランティア団体の情報が集まるページを目指していきます。ぜひご活用ください。

なお、当センターでは、ホームページへ掲載する情報を募集しています。掲載を希望する団体は、直接センター(下段の連絡先)へご相談ください。

アドレス <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>



田原市民活動支援センター

市民と市役所でつくるページ♥あなたのニュースも募集中!

1 NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。(毎週 木・金・土 14:00~19:00 田原文化会館フリースペース)

2 このページに掲載する市民活動情報を募集しています。

●お問い合わせ: ☎22局 1111 (内線812) ※ 開設時間のみ FAX 23局 0180 ✉shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp



スクールレポート

SCHOOL REPORT 33

学校生活の一コマ
を紹介

今回は、「山の学校」長野県阿南町の小学校との交流の様子、「魅力ある学校づくり事業」で作ったクロスカントリーコースを活用する様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎23局3679

和地小学校「交流学習」

心をはぐくむ海と山のふるさと交流！

和地小学校では、平成18年の文部科学省「豊かな体験活動推進事業」の委嘱をきっかけに、阿南町の小学校との交流が始まりました。この交流活動は、今年で6年目を迎えます。

昨年6月、和地小学校に到着した2台のバスから、阿南町の4つの小学校の5年生が次々と降りてきました。体育館に迎え入れ、学校の様子を互いに紹介してから、和地小学校の4～6年生の案内で、和地海岸に出かけました。児童会を中心に準備した企画で、磯浜に寄せる波とたわむれたり、貝やガラス石を見つけたりして、山の子どもたちに和地の海の良さを味わってもらいました。

今年6月には、本校の子どもたちが阿南町へ2泊3日の宿泊学習に出かけます。この山の学校との交流や自然体験を通して、豊かな感性や健やかな心を育ててほしいと願っています。



●仲良くなった阿南町の小学生と一緒に



●名刺交換をする子どもたち



●タカラガイを発見！



●起伏のあるコースを走る子どもたち



●近隣の小学生もコースで練習

伊良湖岬中学校「クロスカントリーコース」

自然の中で楽しみながら体づくり！

伊良湖岬中学校では、昨年9月、運動場の周りにクロスカントリーコースを造りました。コースは、幅が約1.5mで1周が約400mです。クロスカントリーとは、野原や丘陵、森林などを横断するコースで行う長距離競走のことで、高校駅伝や箱根駅伝に出場するような強豪チームの練習にも取り入れられ、効果を上げています。起伏のあるコースを走ることで、持久力だけでなく、普段使わない多くの筋力を強化したり、バランス感覚や敏捷性を高めたりすることが期待できます。

中学生の時期は、心肺機能が最も発達しますので、バランスの良い体づくりが重要です。本校では、体育の授業だけでなく、部活動での基礎体力づくりや陸上部の練習でも活用しています。生徒からも「アップダウンでリズムが変わっておもしろい」「知らないうちに長く走っている」と好評です。このクロスカントリーコースで、楽しみながら体づくりができることを願っています。

4月4日(日)
福祉を学ぶ
新生活スタート！

田原福祉専門学校の入学式が行われ、44名が『たっぷく』の門をたたきました。これから2年間で、介護福祉士の国家資格取得を目指す皆さん。市外からの新入生も多く、中には外国出身の方もいます。地域に飛び込み、田原市でたくさんの方の思い出ができることでしょう。



▲力強く誓いの言葉を述べる川口真依さん

3月16日(水)
思いを新たに
志を誓う

郷土の偉人である渡辺華山の伝記にちなんだ**立志式**が田原中部小学校で行われました。式典では、卒業を間近に控えた6年生53名が、華山の銅像の前に志を誓い、将来の夢などの作文を納めました。児童たちは8年後の成人の日、この作文を開封する予定です。



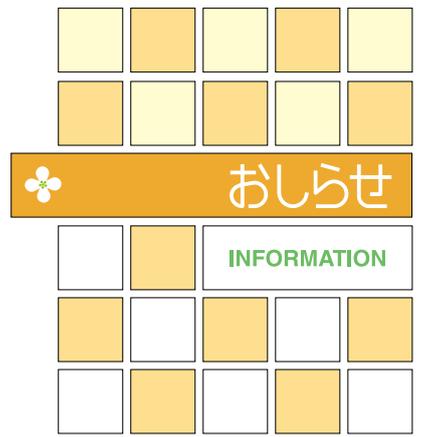
▲渡辺華山の像を前に、それぞれの志を誓う児童たち

3月27日(日)
陽春の半島で
自然を満喫

渥美半島自然体験エコツアール「シデコブシと藤七原湿地の自然探訪」が衣笠山周辺などで行われました。市内外から参加した26名は、インタープリターと呼ばれる自然ガイドの案内で、湿地やシデコブシなどを観察したほか、火打石を打つ体験をしました。



▲藤七原湿地で、ウグイスの鳴き声に耳を傾ける参加者たち



募集

WANTED

まちの環境美化対策 アダプトプログラム(里親制度)

田原市では、まちの環境美化を推進していくためのアダプトプログラム(里親制度)への参加者を募集しています。



アダプトプログラムとは、市民と市が協力し合い、市が管理する道路、公園、河川などの公共施設を市民がボランティアとなって管理する制度です。アダプト(adopt)と

は英語で『養子縁組をする』という意味で、アダプトプログラムは『里親制度』と訳されます。市民の方に里親になっていただき、道路や公園、河川などを養子とみなし、親が子どもを大切にするように、清掃・美化などの活動をしていただきます。

※詳しくは、お問い合わせください。

●活動場所

市が管理する道路・公園・河川などの公共施設

●活動内容

ごみの収集、除草、樹木の管理、活動計画書・報告書の提出

●支援内容

環境美化に必要な物品(ごみ袋、軍手)の支給や貸し出し

希望者にはボランティアの名称を表示するサイン看板の設置

活動時に事故が発生した場合の補償

その他活動に必要な事項

●対象者

市内に在住・在勤・在学する個人・事業者・団体

●申し込み

所定の申し込み用紙に必要事項を記入のうえ、維持管理課へ直接(申し込み用紙は維持管理課で配布す

るほか市ホームページからもダウンロード可)

●その他

申し込み後に、市と協議して「合意書」を交わします。

▼維持管理課

☎23局4103 FAX23局0180

✉jikkanri@city.tahara.aichi.jp

🌐http://www.city.tahara.aichi.jp/

流域モニタリング 一斉調査参加者

▼対象 市内の複数名で構成するグループ(中学生以下の子どもを含む場合は保護者同伴)



▼調査期間 6月5日(日)の前後

1週間 ※この期間内に、調査ができない場合は時期をずらして調査することも可能。

▼内容 身近な水辺(河川・海・ため池など)の水質、水量、生態系などを調べて調査結果を報告

▼参加料 無料 ▼申し込み 5月13日(金)までに環境衛生課で配布する参加申込書に必要事項を記入のうえ提出

▼環境衛生課

☎23局3541 FAX23局0180

✉kanky@city.tahara.aichi.jp

🌐http://www.city.tahara.aichi.jp/

パブリックコメント 意見募集!

パブリックコメント手続制度に基づき、以下の案件について意見を募集します。



●全県域污水適正処理構想(案)について

募集期間 ▶ 5月10日(火)~6月8日(水)

田原市では計画的・効率的な污水处理施設の整備推進を図ることを目的として、污水適正処理構想の素案を取りまとめました。なお、公表後に素案を県に提出し、県が各市町村の素案を取りまとめ、全県域污水適正処理構想として公表されます。

担当課 ▶ 下水道課 ☎23局3525 FAX22局3184

✉ gesui@city.tahara.aichi.jp

☑意見提出方法

① 公表場所へ持参 ② 郵便 ③ FAX ④ Eメール

住所・氏名・電話番号を明記のうえ、意見を提出してください。(個々の意見には直接回答いたしません。)

☑計画案の公表場所

市役所下水道課、赤羽根市民センター(旧赤羽根支所)、渥美支所地域課、市役所情報広場、中央図書館、市ホームページ

🌐http://www.city.tahara.aichi.jp/

長野県宮田村 りんごの木オーナー

平成11年に田原市と友好提携を結んだ宮田村では、交流事業の一環として、JA上伊那宮田支所が「りんごの木オーナー」を募集します。太陽の光をたっぷり浴びて育った、甘い蜜の入った「サンふじ」を収穫してみませんか。

なお、昨年度に契約したオーナーの方には、継続希望をお伺いするハガキを郵送していますので、ご記入のうえご返送ください。

♥サンふじA

●価格＝2万5000円(税込み)
●数量＝180個保証

♥サンふじB

●価格＝3万8500円(税込み)
●数量＝300個保証

▼申し込み＝5月9日(月)までに電話にて

▼JA上伊那宮田支所営農課

☎(0265)84局1201

豊橋田原食育体験講座「地産地消のランチセミナー」参加者

ホテルで味わう豊橋・田原の旬の農業王国豊橋・田原で生産される旬の特選素材を活かした地産地消ラ

ンチをいただきますながら、シェフや生産者の方からお話を伺います。

▼日時＝5月18日(水) 正午～午後2時

▼場所＝ホテルアークリッ

シュ豊橋 ▼講師＝酒井淳氏(ホテル総料理長)、地元のプロ農家ほか

▼定員＝25名(申込者多数の場合は抽選)

▼参加料＝3500円(食事代)

▼申し込み＝5月2日(月)までにFAX・Eメール・はがきにて(参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記)

▼豊橋田原広域農業推進会議事務局

(〒440-8501 住所不要)

豊橋市農政課内)

☎(0532)51局2471

FAX(0532)56局5130

✉info_nosei@city.toyohashi.jp

HP http://www.toyohashi-tahara.jp/

生活

LIFE

春の安全なまちづくり県民運動 5月6日(月)～18日(水)

地域の皆さんと防犯協会、警察が協力しあい、身の周りに危険を及ぼす犯罪を未然に防ぐ活動を行います。暖かくなり、気持ちも開放的

なる時期だからこそ、身の周りの防犯対策がしっかりとできてきているかどうかを確認しましょう。

また、新入学児童・園児は、身を守る力が弱いので、保護者をはじめ

周りの大人の方が見守っていく必要

があります。地域ぐるみで防犯活動

を行い、安心して暮らせるまちを目

指しましょう。

●運動の重点

▼子どもが被害者となる事件・事故の防止

▼自動車盗および自動車関連窃盗の防止

▼住宅を対象とした侵入盗の防止

▼市民協働課

☎23局3504 FAX23局0180

HP http://www.toyohashi-tahara.jp/

春の交通安全県民運動 5月11日(水)～20日(金)

新緑が鮮やかとなるこの時期、新入学児の行動範囲が広がったり、高齢者の朝夕の散歩などで外出の機会が増えたりすることから、子どもや高齢者が犠牲となる交通事故が心配されます。また暖かくなり、開放感から飲酒運転も心配されます。ドライバーの皆さん、飲酒運転を

なくし、子どもや高齢者を見かけたから、思いやりのある運転で交通事故をなくしましょう。

●重点目標

▼子どもや高齢者を交通事故から守ろう

▼すべての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう

▼自転車の安全利用を進めよう

▼飲酒運転を根絶しよう

▼市民協働課

☎23局3504 FAX23局0180

HP http://www.toyohashi-tahara.jp/

寄付

DONATION

次の方々からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

▼3月4日、堀切厄才会 代表 渡會英樹様から、堀切小学校の備品充実のため、榨台付き鏡48本、歯鏡48本、和太鼓2台、ハンドマイク1台。

▼3月10日、カリッソー株式会社様から、交通安全推進のため金200万円。

▼3月24日、有限会社丸一電器代表取締役 飯尾幸雄様から、生涯学習施設充実のため、田原文化会館にテレビ一台。

たはら
9 | 広報 平成23年4月15日

広がる未来へ

60
*たはらエコ・ガーデンシティ構想

●田原市エコエネルギー導入等補助金制度のご紹介

環境にやさしい太陽光発電システムを設置される方や低公害車を購入された市民の方・市内事業所に対して、補助金制度がありますのでご利用ください。

なお、補助要綱や補助金額（太陽光発電のみ）などが平成22年度と変わりましたので、ご注意ください。

平成23年度エコエネルギー導入等補助金制度

補助施設等	補助額	申請時期	他の補助
太陽光発電 (住宅用・事業用)	上限24万円 (6万円/kW)	工事着手前 (2週間程度前)	国 (住宅用)
低公害車 (個人用・事業用)	上限5万円 (車両本体価格の5%)	新車登録・支払完了後 30日以内	県 (事業用)

- 市税などの滞納がある場合は、補助金を受けることができません。
- たはらエコチャレンジ宣言の登録が必要となります。
- 平成23年度中に設置や購入が完了するものが対象となります。
- 申請書類は、本人または家族の方が、直接エコエ推進室に提出してください。
- 予算がなくなり次第、受付を終了します。

◆太陽光発電システム

作られた電気はご家庭で利用し、余った場合は電力会社に売電できます。平成23年度に設置した場合の買い取り価格(住宅用)は42円/kWhで、10年間固定です。設置費用は1kWあたり平均60万円程度です。



◆低公害車

ハイブリッド自動車や電気自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車が対象です。



▶補助要綱や申請様式は、市ホームページからダウンロードできます。詳細はお問い合わせください。

●たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人1331人・事業所62か所(3月末現在)

▼エコエ推進室

☎23局7401 FAX23局0180



省資源とリサイクル

もやせるごみは、収集された後、田原リサイクルセンター「炭生館」へ搬入されます。今回は、もやせるごみについて、お知らせします。

もやせるごみから炭ができます

炭生館へ搬入されたもやせるごみは、蒸し焼きにされ、炭に生まれ変わります。できた炭は、保温剤などとして使用されます。

炭生館は、自由に見学することができます。詳しくは、炭生館ホームページをご覧ください。

炭生館 <http://www.gsi-tanseikan.co.jp>

もやせるごみを減量しよう

もやせるごみで大きな割合を占めるのが、紙布類です。その中には、牛乳パック・チラシ・包装紙・菓子箱など、資源として再生可能なものが含まれています。資源として出せるものは、分別してリサイクルしましょう。

もやせるごみの出し方は?

- 生ごみは、水をよく切る
- もやすときに使用する燃料が少なくなります
- 長いひも状のものは、30cm以内に切る
- 長いままで、機械にからまり故障の原因になります
- 金属などの異物を混ぜない
- 機械が破損し、故障の原因になります



ごみの分け方・出し方パンフレットを確認し、分別にご協力ください。



清掃管理課
☎23局3538
FAX23局0180



ゴミゴミとリサイクルレンジャー

交流通信

このコーナーでは、田原市の国内外の交流事業や多文化共生事業の情報をお届けします。

▶政策推進課 ☎23局3507

田原市・設楽町交流スタンプラリーにご参加ください

田原市と姉妹都市 設楽町との共同事業である、交流スタンプラリーをご紹介します。

平成2年に田原市と設楽町は姉妹提携し、昨年、20周年を迎えました。これからも交流を続けていく両市町では、今年度も交流スタンプラリーを開催します。

応募用紙に指定のスタンプを押して応募すると、抽選で賞品が当たります。設楽町の「山の自然」を満喫し、スタンプラリーに参加してみたいはかがですか。

●開催期間

4月29日(金・祝)～平成24年2月29日(水)※応募はがき必着

●参加資格

どなたでも

●応募方法

応募用紙に、指定の4つのエリア(設楽町A・B、田原市C・D)から各1つ、すべてのエリアのスタンプを集め、必要事項を記入のうえ、直接または郵送にて



●応募先

田原市役所、渥美支所、赤羽根市民センター(旧赤羽根支所)、設楽町役場、津具総合支所

●賞品

国内旅行券(1本)、グリーンメッセージ宿泊利用券(5本)、設楽町特産品(40本)など計132本予定

●お問い合わせ

政策推進課 ☎23局3507

※詳しくは、市役所、渥美支所、赤羽根市民センター(旧赤羽根支所)、各ラリースポットにある応募用紙または市ホームページ(<http://www.city.tahara.aichi.jp>)をご覧ください。

●市内で応募用紙を配布しているラリースポット

「道の駅」田原めっくんはうす・あかばね口コステーション・伊良湖クリスタルボルト、蔵王山展望台、サンテパルクたはら、シェルマよしご、白谷海浜公園、菜の花まつり会場(平成24年1月中旬開催)

●第1次/第2次 職員4名/2名
出発・4月7日帰庁

●住家被害認定調査活動

千葉県浦安市へ派遣/3月25日

●職員2名、給水車1台
出発・3月18日帰庁

●給水活動

栃木県矢板市へ派遣/3月12日

●第9～12次隊 消火隊4名

●第2次隊・第5次～8次隊 消火隊5名

●緊急消防援助隊愛知県隊
宮城県亘理町・山元町へ派遣/3月12日の第2次隊に参加後、5日間程度で次の隊と交代

▼人的支援

●市からの支援
宮城県警へ納体袋200袋(3月22日)
宮城県へアルファ米やビスケットなど7380食(3月24日)
宮城県へ、簡易トイレ100個、小児用おむつ1784枚など(3月28日)

●農業集落排水管路の被災状況調査活動
千葉県香取市へ派遣/3月28日出発・4月1日帰庁

かんちゃん

東日本大震災 田原市の支援

防災まめ知識

71

忍びよる巨大地震



●物的支援
職員2名

●市民の皆さんからの支援
3月22日～28日に受け付けた皆さんからの支援物資は、愛知県を通じ、宮城県へ届けました。ご協力ありがとうございました。

●アルファ米など721食、カップめんなど783食、缶詰790食、粉ミルク88kg、おむつ(大人・小児用)2万7948枚など

※支援内容は4月8日現在

▼防災対策課 ☎23局3548

歴史探訪

クラブ! 其の121

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

汐川改修事業と仲井式次郎

汐川と青津川^{あおづ}が交わる場所（神戸町）に、2基の大きな石碑が建っています。この石碑の一つには「汐川改修之碑」、もう一つには「土地改良事業功労者 仲井式次郎先生彰徳碑」と刻まれています。

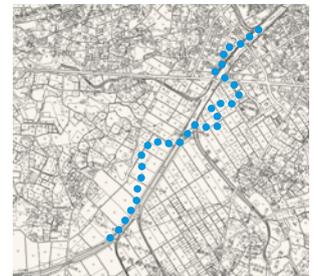
仲井式次郎は、明治2年、現在の西神戸町に生まれました。神戸小学校に勤務し、退職後に地元の区長、村会議員、渥美郡会議員、大正10年（昭和4年）には神戸村の村長を務めています。これまでの経歴を見ると、



▲仲井式次郎(神戸市民館提供)

地域の典型的な名士としての道を順調に歩んできたように思えます。

式次郎が村長を務めたころの神戸村は、耕地も少なく、決して裕福で恵まれた村ではありませんでした。その上、神戸村内を流れる汐川やその支流は、川幅が狭く曲がりくねり、一旦雨が続きと水は堤防から溢れ、周辺は水浸しとなりました。また高潮になると耕地に海水が流れ込み、塩害にも悩まされ、作物にも大きな被害を与えました。また台地は水が不足し、低い土地は水はけが悪く、腰までぬかるむ深田で、農道もなく、耕作や収穫のための出入りも不便でした。働いても繰り返し起こる災害によって田畑は荒地となり、神戸村の人たちは、苦しみ希望を失っていききました。日々の生活は荒れるばかりで、もはや限界に達していました。



▲改修前の汐川(点線)

式次郎はこのことに深く心を痛め、汐川沿岸耕地整理組合を作り、働いただけの福になる畑を整備するために、汐川の改修と耕地整理の事業を進める決意をしました。しかし組合員はなかなか「うん」と言いません。ここから式次郎の苦難が始まりました。

式次郎は、説得するために20回以上の会議を重ねました。反対の理由は「工事を捻出する余裕がない」「工事の間は作物が作れない」「新しい道路・水路によって耕作地の面積が減る」という心配でした。反対意見だけでなく、事業は複数の町村にまたがるため、それぞれの事情が複雑だったことも障害となりました。

意を決した式次郎は、代表者の前で、事業を断念し、自らの命を捧げる決意を涙ながらに語りました。参加した全ての人々が、式次郎の思いに心は動かされ、26回目の最後の会議で、ついに全員の同意を得ることができました。しかし残念なことに、

式次郎はここに深く心を痛め、汐川沿岸耕地整理組合を作り、働いただけの福になる畑を整備するために、汐川の改修と耕地整理の事業を進める決意をしました。しかし組合員はなかなか「うん」と言いません。ここから式次郎の苦難が始まりました。

式次郎は病に侵され、事業の完成を待たずに昭和6年に亡くなりました。

式次郎が願った汐川の改修と耕地整理は、昭和2年に工事が始まり、下流の村もそれに連動して耕地整理事業を進め、現在のような使いやすい耕地の姿となりました。

昭和32年3月、式次郎の功績を称え、顕彰碑が建立されました。朝夕、太陽の光を浴びて輝くその存在感は圧倒的です。その姿は、まるで式次郎が汐川の流れを見守っているかのようです。

(増山)



▲仲井式次郎顕彰碑

今月の「表紙」
▼スイートピーハウスでは、例年よりも早く種用の花が咲き始めました。これは、東日本大震災の影響で、切り花の価格が下落し、出荷を見合わせたためとのことでした。きれいな花を見ると、笑顔になる方も多くは、たくさんさんの笑顔を咲かせるための、大切な種。真心込めて育てられています。(〇)

【表紙の写真】スイートピーハウス(日町町)